

## 池田名誉会長講義

### 勝利の經典御書に学ぶ「兄弟抄(下)」

断じて勝て！師は勝利を待っている！

【今回の学習のポイント】 御書1087ページ1089ページ最後まで

(注)設問の都合上、回答例として「魔」と「三障四魔」を使い分けていますが、この二つの言葉はいずれの箇所でも同意で用いています。「魔」三障四魔」として理解して下さい。

「兄弟抄」は、文永12年4月に日蓮大聖人が(身延)の地から(池上)兄弟にあたえられたお手紙です。

この御文のポイントは

- ① (三障四魔)との闘争
- ② (異体)同心
- ③ (師弟)不二の信心 です。

※池田先生の講義の趣旨を踏まえて、語群から言葉を選んで次の文章を完成させなさい。

魔 三障四魔 仏 行解 創価学会 戸田城聖 無明 紛然 広宣流布 日蓮大聖人  
一生 原水爆禁止宣言 強敵 立正 一凶 追撃 宗門 三代 幸福

私たちの人生、信心は、生命を幸福へ向かわせる(仏)の住み家とするか、逆に不幸へと向かわせる(魔)の住所とするか、どちらか一方をとらなければならぬ。

進んで(魔)の働きをかり出し、これを退治してこそ幸福と広宣流布とがある。

(魔)との戦いの中に(一生)成仏と広宣流布の信心がある。

牧口先生は、「(行解)既に勤めぬれば(三障四魔)(紛然)として競い起る」との御文を通して、(魔)と戦う信心こそ日蓮大聖人の仏法の真髄であると強調された。

現代において(創価学会)は、大聖人の仏法を正しく如説修行し抜いてきた。

牧口先生に続き、弟子である(戸田城聖)先生もまた一貫して破邪顕正の指揮をとられた。その(戸田城聖)先生をお護りしたのが池田先生である。

(戸田城聖)第二代会長の闘争とは、この地上から悲惨と不幸を根絶するために、貧困・憎悪・暴力の苦悩の解決へ、人間の根源悪である(無明)を打ち破る宗教革命であった。「三類の(強敵)を打ち破りつつ」(立正)安国」の砦を築いた。

昭和32年9月に発表した(原水爆禁止宣言)は、人類の魔性の爪をもぎとる熾烈な闘争である。

そして、(宗門)に巢食う邪悪と戦い抜き、人類の(一凶)となる一切の魔性への(追撃)の手を緩めてはならないと遺命された。

創価学会における(魔)との闘争が(日蓮大聖人)御聖訓通りの(三代)会長の闘争を貫く学会指導の骨髄である。

この信心を継承すれば、(広宣流布)は必ず実現する。

## 【1】「門家の明鏡」「未来の資糧」

されば) 天台 (大師の摩訶止観と申す文は天台一期の大事・一代聖教の肝心ぞかし (中略) 其の上摩訶止観の第五の巻の一念) 三千 (は今一重立ち入たる法門ぞかし、此の法門を申すには必ず) 魔 (出来すべし) 魔 (競はずは) 正法 (と知るべからず、第五の巻に云く) 行解 (既に勤めぬれば) 三障四魔 (紛然として) 競い (起る乃至随う可らず畏る可らず之に随えば将に人をして) 悪道 (に向わしむ之を畏れば) (正法) を修することを妨ぐ」等云云、此の釈は日蓮が身に当るのみならず (門家の明鏡) なり謹んで習い伝えて (未来) の資糧とせよ

※右の御文を踏まえて空欄を埋めなさい。

断じて (魔) に敗れてはならない。

信心とは (三障四魔) との戦いである。

(一念) (三千の法門)こそ仏教の肝心である。

(一念三千) の法門は、万人 (成仏) を示す法華経の真髓を、生命変革の実践の指標として、(天台) 大師が表現したものである。

仏法の極理を説くにあたっては、決して (三障四魔) を恐れて退転してはならない。正しい仏法の実践には必ず (三障四魔) が出来る。

敢然と (魔) を打ち破り、生命変革を勝ち取っていくための指標である。

※「行解既に勤めぬれば」との御文に関して次の御文を埋めなさい。

經典に対する理解が深まり、その理解に基いた修行が整った時、すなわち、いよいよ

(生命) (変革の本格的な修行に入る時だからこそ) (三障四魔) が競い起る。

(行学) (の二道に励み、「いざ前進」の時に必ず) (三障四魔) が競い起る。

凡夫から (仏) (への境目の時に) (三障四魔) が起る。

※「紛然として競い起る」との御文に関して次の御文を埋めなさい。

三障四魔は、入り交じって争うように出てくる。

三障四魔の紛然たる策動は

- ① (不意) をつく
  - ② (怖がらせる)
  - ③ (誘惑) する
  - ④ (嫌気) を誘う
  - ⑤ (疲れ) させる
  - ⑥ (油断) させる
- 等の形であられる。

※次の文章を完成させなさい。

三障四魔に立ち向う信心の要諦として、(天台) 大師は、

① (随う) (べからず、

② (畏る) (べからず) という2点を強調されている。

魔に随えば) (悪道) (に引き落とされ、魔を畏れば) (正法修行) (の妨げになる。

※語群から選んで次の文章を完成させなさい。

信心 毒 薬 智慧 勇氣 仏 南無妙法蓮華經 大難・難 三障四魔・魔 安楽  
悦び 未来 法華經 資糧 日蓮 日蓮大聖人 門家 門下 明鏡 創価学会 災 幸

その根本は、( 南無妙法蓮華經 ) の唱題行であり、  
魔に従わず魔を魔と見破る ( 智慧 ) と、  
魔を恐れず魔に断固立ち向かう ( 勇氣 ) の源泉になる。  
妙法の力用が、「無明」を即「法」( 性 ) へ転じ、「難」( 来るを以て ) 安楽 ( 「の境涯  
を開くことに繋がるのである。

つまり、( 三障四魔 ) と戦うことで信心が磨かれる。

猪が金山を摺り、衆流が海に入るり、薪の火を熾(さかん)にし、風の求羅を益すようなものである。法華經への強情な ( 信心 ) ( コソ「変」毒 ( 為 ) 薬 ) 「の妙用をもたらす。

「災」( い ) を変じて「幸」( い ) へと変えるのである。

「大難」( 来りなば強盛の信心弥陀 ) 悦び ( をなすべし ) と御書にあるように、

( 大難 ) は ( 法華經 ) の行者の生命を強くする。

( 大難 ) に英雄しく立ち向かってこそ、( 仏 ) ( 界の生命はいやまして輝く。

「難」( 即成 ) 仏 ( 「の軌道を示して、最後まで戦えと指導されている。

三障四魔と戦い、勝ち切っていく軌道は、師匠である御本仏 ( 日蓮大聖人 ) が歩まれた。  
御文に「日蓮」( が身に当る ) とある実践である。

師に続いて栄光の大道を歩むことが「日蓮」( が身に当るのみならず ) 門家の明鏡 ( なり ) の本意である。

そして、「謹んで習い伝えて」未来 ( の ) 資糧 ( とせよ ) とは、門下として勝利した姿  
がさらに後に続く ( 門下 ) ( たちの未来永遠の手本になる方程式を示している。

師に教わった「魔」( と戦う信心 ) を謹んで習い伝え、( 創価学会 ) ( 万代の発展の因を  
今こそ築こう！

## 【2】三障四魔と戦う「本物の信心」

此の釈に三障と申すは ( 煩惱 ) ( 障 ) ( 業 ) ( 障 ) ( 報 ) ( 障 ) なり、( 煩惱 ) ( 障 ) と申す  
は ( 貪瞋癡 ) ( 等 ) によりて障礙出来すべし、( 業 ) ( 障 ) と申すは ( 妻子 ) ( 等 ) によりて障  
礙出来すべし、( 報 ) ( 障 ) と申すは ( 国主父母 ) ( 等 ) によりて障礙出来すべし、  
又四魔の中に ( 天子 ) ( 魔 ) と申すも是くの如し今日本国に我も止観を得たり我も止観を得  
たりと云う人人誰か ( 三障四魔 ) 競へる人あるや

( 1 ) 三障の説明について次の文章を完成させなさい。

三障とは、( 仏道 ) ( 修行を妨げ、 ) ( 善 ) ( 根を害する ) の働きであり、

( 煩惱 ) ( 障 ) ( 業 ) ( 障 ) ( 報 ) ( 障 ) である。

※語群から選んで次の文章を完成させなさい。

妻子 国主父母 煩惱 生命 悪 善 心 信心 過去 未来 絶対 相対  
貧・瞋・癡 悪縁

煩惱障とは、( 貧・瞋・癡 ) など、その人自身に具わる( 煩惱 ) が信心修行の妨げとなることをさす。( 煩惱 ) とは、( 生命 ) ( 力を弱め、 ) ( 心 ) を狂わせて、向上の気力そのものを失わせる心の働きである。

業障とは、自身の( 生命 ) ( に刻まれた ) ( 悪 ) ( 業の影響力が信仰の妨げになる。本文中に ) ( 妻子 ) ( による妨げと代表例が示されている。 )

報障とは、( 過去 ) ( 世の ) ( 悪 ) ( 業の果報によって生じる障りであり、

( 悪 ) ( 世や悪環境に生まれることなどが含まれる。 )

本文中には ) ( 国主父母 ) ( 等によると記されている。 )

ここで大切な点は、妻子や国主等は、自身の( 信心 ) ( を妨げる ) ( 悪縁 ) ( に過ぎない。 ) 退転するかどうかは、自分自身の( 心 ) ( の問題である。 )

言い換えれば、妻子や国主は( 絶対 ) ( 的な悪ではない。 ) 自身が勝利すれば三障四魔も( 善 ) ( 知識となる。 ) 大切な点は、自身が変革すること、他者の( 生命 ) ( を変革することが可能となる希望の哲学であるということ ) である。

(2) 四魔について次の空欄を埋めなさい。

四魔とは、信心している人自身の( 生命 ) ( の内側から、 ) ( 生命 ) ( そのものを奪い、心を破壊しようとする4つの働きである。 ) 殺者、能奪( 命 ) ( 者、破壊ともいう。 )

( 煩惱 ) ( 魔 ) ( 煩惱 ) ( が衆生の心を悩乱し、智慧の命を奪うこと )

( 陰 ) ( 魔 ) ( 陰 ) ( の不調和から心の懊悩が生じて信心を破壊すること )

( 死 ) ( 魔 ) ( 修行者自身の ) ( 生命 ) ( を奪うこと )

( 天子 ) ( 魔 ) ( 修行者の ) ( 死 ) ( によって回りの人が疑いを起こすこと )

( 別名を ) ( 他化自在天子 ) ( 魔 ) ( 第六天 ) ( の魔王という。 )

兄弟抄では( 池上 ) ( 兄弟の仲を裂き、 ) ( 信心 ) ( をやめさせようと働いた ) ( ことが記されています。 )

(3) この御文を通して池田先生は「現実に三障四魔と戦い続ける大聖人と門下だけが、真の正法実践の継承者である」と講義されています。このことを踏まえて、語群から選んで次の文章を完成させなさい。

三障四魔 日蓮大聖人 門下 創価 日蓮正宗 獄卒 悪道 信者 行者

( 三障四魔 ) ( を起して、打ち破ることができるとは ) ( 日蓮大聖人 ) ( 自身と ) ( 門下 ) ( しかない。 )

現代においては、( 創価 ) ( の師弟の闘争であり、学会員の実践しかない。 )

従来の( 日蓮正宗 ) ( の信者の中には、 ) ( 三障四魔 ) ( を起した者は誰もいない。 )

魔が起らないで人を指導するのは( 悪道 ) ( に人をつかはず ) ( 獄卒 ) ( である。 )

( 三障四魔 ) ( が起るのが ) ( 行者 ) ( である。 ) 単なる( 信者 ) ( には ) ( 魔 ) ( は起らない。 )

(4) 牧口先生の指導を踏まえて語群から選んで次の文章を完成させなさい。

菩薩 大善 小善 三障四魔 魔 信者 行者 創価学会員 成仏 広宣流布 身命

自分のためだけに信仰している( ) 小善( )生活者には決して( ) 魔( )は起らない。  
( ) 菩薩( )行という( ) 大善( )生活をやれば、必ず( ) 魔( )が起る。  
敢然と大悪と戦う我々に( ) 三障四魔( )が紛然と競い起るのは当然であり、起るからこそ( ) 行者( )なのである。自分だけの利益を願ひ、( ) 魔( )との戦いを避ける臆病な( ) 信者( )になるな。  
一生( ) 成仏( )、( ) 広宣流布( )のために( ) 身命( )を賭して( ) 三障四魔( )と戦うこそ真の( ) 行者( )である。  
我が( ) 創価学会員( )こそ、現代の誉れの( ) 行者( )である。

【3】人々を悪道に墮とす獄卒との闘争

之に随えば將に人をして( ) 悪道( )に向わしむと申すは只三悪道のみならず人天・( ) 九界( )を皆( ) 悪道( )とかけり、されば( ) 法華経( )を除きて華嚴・阿含・方等・般若・涅槃・大日経等なり、天台宗を除きて余の七宗の人人は人を( ) 悪道( )に向わしむる( ) 獄卒( )なり、天台宗の人人の中にも( ) 法華経( )を信ずるやうにて人を爾前へやるは( ) 悪道( )に人をつかはす( ) 獄卒( )なり

※本文を踏まえて次の文章を完成させなさい。

諸宗の悪僧たちは、人々を三障四魔によって悪道に墮とす( ) 悪( )知識である。  
人々を( ) 悪道( )に向かわせる( ) 獄卒( )である。  
天台宗の僧たちも( ) 法華経( )を捨てさせているので( ) 獄卒( )である。

「獄卒」を根源の悪として責める日蓮門下に( ) 三障四魔( )が出来するのは必然である。  
大聖人と共に立ち上がったのが池上兄弟をはじめとする真正の( ) 弟子( )である。  
大聖人はこの御文を通して、( ) 師弟( )の共戦を呼びかけられている。

【4】兄弟、夫婦の団結こそ勝利の因 《異体同心の団結の大切さ》

今二人の人人は隠士と烈士とのごとし一もかけなば成すべからず、( ) 中略( )  
此の法門のゆへには設ひ夫に害せらるるとも悔ゆる事なかれ、一同して夫の心をいさめば  
竜女が跡をつぎ末代悪世の( ) 女人( )の成仏の根本と成り給うべし、此くの如くおはさば  
設ひいかなる事ありとも日蓮が二聖・二天・十羅刹・釈迦・多宝に申して順次生に  
( ) 仏( )になし・たてまつるべし

※語群から言葉を選んで次の文章を完成させなさい。

魔性と戦う信心の要諦は( ) 師弟( )不二と「異体( ) 同心( )」である。  
魔は( ) 分断( )をたくらむ。  
( ) 魔( )を打ち破ることができるのは、善の連帯しかない。  
信仰者の( ) 団結( )こそ、( ) 魔( )性の侵入を防ぐ最高の金城鉄壁である。

一家和楽において、いざという時、( ) 女性 ( ) の信心が大切である。  
一家和楽の信心には、あせりは必要ない。  
ただ一人が ( ) 妙法 ( ) を持てば、家族一族を照らす ( ) 太陽 ( ) が昇ったようなものである。  
「全賢を幸せにしてみせる」との祈りと確信が大切である。  
( ) 夫人 ( ) たちが聡明に毅然たる信心を貫けば、( ) 魔 ( ) を必ず打ち破り、家族一同に  
( ) 成仏 ( ) の大境涯をあらわすことができる。

師弟 魔 団結 女性・夫人 男性 成仏 異心 同心 分断 妙法・仏法 太陽

### 【5】「心こそ大切」の勝利の人生を

( ) 心 ( ) の師とは・なるとも) 心 ( ) を師とせざれとは六波羅蜜經の文なり。  
設ひ・いかなる・) わづらはしき ( ) 事ありとも夢になして只 ( ) 法華經 ( ) の事のみさは  
ぐらせ給うべし

※あとの語群から言葉を選んで次の文章を完成させなさい。

- ( ) 「心 ( ) こそ大切なれ」である。
- ( ) 心 ( ) には生命に無常の尊極性を ( ) 開く ( ) 力がある。
- ( ) 無明 ( ) につき動かされ墮落するの ( ) 心 ( ) である。
- ( ) 心 ( ) の変革こそが成仏の一切の根幹である。

そのときに、揺れ動く自分の ( ) 心 ( ) を基準にするのではない。

絶対に揺るがない成仏の山頂を見据えて「心 ( ) 師 ( ) 」を求めぬくしかない。

「心 ( ) 師 ( ) とは・なるとも心を) 師 ( ) とせざれ」である。

「心 ( ) 師 ( ) とは、断固として揺れ動かない不動の根拠である」( ) 法 ( ) である。  
したがって「( ) 法 ( ) 」を悟り弘める仏の説き残した「経典」が大事である。

具体的には「( ) 御本尊 ( ) 根本」「( ) 御書 ( ) 根本」の姿勢が「心 ( ) 師 ( ) 」を求め  
ることになる。

「法」と私自身を結びつけるのが「( ) 師匠 ( ) 」の存在である。

「心の師」を求める生き方とは、自分中心の ( ) 慢心 ( ) ではなく、( ) 師弟 ( ) 不二の  
求道の信心に生き抜くことである。

本文に「たとえ、心を煩わせる、どのようなことがあっても、夢と違って、ただ法華經  
のことだけに専念していきなさい」とは、まさに、どんなまでも「心の師」である

「( ) 法 ( ) 」を根本として生き抜けとの師匠の叫びである。

現代において、「心の師」を求める生き方を実践する ( ) 学会員 ( ) こそ、「広宣流布の  
宝」「人類の宝」である。

世界の知性が賛嘆する時代に入ったのである。

無明 法性 心 開く 師・師匠 師弟 法 御本尊 御書 学会員 慢心

## 【6】「師弟不二」の信心こそ一切の要

中にも) 日蓮 (が法門は古へこそ信じかたかりしが今は前前いひをきし事既にあひぬればよしなく謗ぜし人人も悔る心あるべし、設ひこれより後に信ずる男女ありとも各各にはかへ思ふべからず(中略)

此の御文は別してひやうへの志殿へまいらせ候、又太夫志殿の女房兵衛志殿の女房によくよく申しきかせさせ給うべし・きかせさせ給うべし

※あとの語群から言葉を選んで次の文章を完成させなさい。

どんな嵐が吹き荒れても、いささかも微動だにせず、背信の者達を悠然と見下ろし、

( 広宣流布 ) の大道を貫いてきた門下たちこそ真の ( 弟子 ) である。

( 師弟 )こそ人生の無常の価値である。

( 一生成仏 ) という大空に悠々と舞い上がっていくには、( 難 ) という烈風に向かって飛び立たねばならない。( 難 ) に負けない信心こそが、永遠の ( 幸福 ) の城を築きゆく力なのだ。( 信心 ) で超えられぬ ( 難 ) など、断じてない。

学会精神とは、( 折伏 ) 精神であり、( 魔 ) と戦う攻撃精神である。

どこまでも大切なのは ( 信心 ) である。

御書に「必ず ( 三障四魔 ) と申す障いできたれば ( 賢者 ) ( はよろこび ) ( 愚者 ) ( は退く) くれなり」とあるように、

( 賢者 ) ( はよろこび ) の信心に立てば、( 三障四魔 ) の激しい風は、わが生命に覆う ( 宿命 ) の雲を吹き払う。

澄み切った天空に、大歓喜の虹がかかることは絶対に間違いない。

「正義」と「幸福」と「勝利」の太陽の光が燦然と輝くことを確信して威風堂々と進むことである。( 三障四魔 ) を打ち破る ( 弟子 ) の勝利こそ、( 師匠 ) の祈りであり、喜びなのです。

一生成仏 難 信心 三障四魔 幸福 賢者 愚者 三障四魔 弟子 師匠

### 【追加設問】

池上兄弟に襲い掛かってきた天子魔による信心破壊の具体的な内容を書きなさい。

父親が兄を勘当して、弟に家督相続の誘惑をして兄弟の団結を分断しようとした。今回の事件は明らかな離間工作であり、第六天の魔王の働きそのものである。